

新 往来

第20号 2006. 3.15

編集・発行

農林水産省 農村振興局 企画部 農村政策課



「幸福」という名が付く駅は全国でここだけ
幸福ホームランメロンオーナー



水田に映える幻想的な灯火
第4回 土谷棚田火祭り



麴なんばんから始まった工房にて青春再来中！
五葉山火縄銃鉄砲隊の里の母ちゃん達

田舎暮らしを支援する取り組み . . . 3

- たかはた田舎暮らしサポートの会 (山形県高畠町)
- 甲斐敷島梅の里クラインガルテン (山梨県甲斐市)
- 週末田舎暮らし四賀クラインガルテン (長野県松本市)
- 佐渡市空き家対策事業 (新潟県佐渡市)
- 城下町おおのに住んでみませんか
～城下町おおの定住促進事業～ (福井県大野市)
- 「しんこうタウン」分譲とレクリエーション農園
「薬神の里(やくじんのさと)」 (兵庫県神戸町)

わがまち自慢 . . . 5

- 冬の使者 (宮城県栗原市)
- 蛭が飛び交うまちの復活 (岐阜県岐阜市)
- 水を生かしたまちづくり (岐阜県大垣市)
- 愛知万博の原点「海上の森」を市民、地域協働で保全活用 (愛知県瀬戸市)
- 田んぼの学校inひとよし (熊本県人吉市)

わがまちの旨いもん . . . 7

- 第1回ゆうばり料理コンテスト (北海道夕張市)
- 麻法(まほう)のえごま (宮城県色麻町)
- 雪国の伝統の味覚「いぶりがっこ」 (秋田県横手市)
- おいしさにはわけがあります「大口れんこん」 (新潟県長岡市)
- ご当地カレーの決定版 薬膳カレー (富山県上市町)
- 地元の大豆で昔ながらの製法で造った「平家豆腐」 (富山県南砺市)
- 岐阜スローフードコンテスト2005 (岐阜県岐阜市)
- ヘルシーな油「ひまわり油」を是非一度 (兵庫県佐用町)
- じゃこ天 (愛媛県八幡浜市)

私達、輝いています . . . 9

- 五葉山火縄銃鉄砲隊の里の母ちゃん達 (岩手県住田町)
- ふるさとの味を届けて21年
『町生活改善クラブ連絡協議会』 (宮城県色麻町)
- アグリネット (新潟県柏崎市)
- 地元「明宝」に古くから伝わる郷土食や伝統食の見直しや
再現、各種イベントでの味の提言等 (岐阜県郡上市)
- コミュニティーガーデンで花いっぱいの大垣へ (岐阜県大垣市)
- 特産品加工グループ「エスペランス」 (愛媛県西条市)

交流・連携通信 . . . 11

- 幸福ホームランメロンオーナー (熊本県あさぎり町)
- 風味豊かな自慢の玄そば (福井県大野市)
- 都市との交流で地域の活性化を目指す「かどのの郷」 (兵庫県丹波市)
- 遊休農地を活用した「さつまいも作りチャレンジ農園」 (鹿児島県鹿児島市)

Let's 農業 . . . 13

- 有機農業体験プロジェクト (岐阜県大垣市)

アンテナショップ情報 . . . 13

- 東村山逸品倶楽部2005 (東京都東村山市)
- 松阪農業公園ベルファーム「匠の館」内『松阪商会』 (三重県松阪市)
- 漁協直営販売所漁協直営食堂「漁師の味『港あおしま』」 (宮城県宮崎市)

わがまちのユニーク施策 . . . 14

- スキー場に観光菜園設置 (石川県白山市)
- 安全・安心なカミツレを栽培しています (岐阜県大垣市)
- ツシマヤマネコと共生するまちをめざして (長崎県対馬市)
- Let's Go 人吉球磨!! (熊本県人吉球磨地域)

イベント情報 . . . 15

- 平成18年4月から平成18年6月までの期間に全国各地で開催が予定されているイベントの情報

農村振興局からのお知らせ . . . 18

- 農村景観応援団の結成について
- 平成17年度「立ち上がる農山漁村」30事例が選定されました!
- 「第3回オーライ! ニッポン大賞」
「第5回むらの伝統文化顕彰」の選定結果について
- 農村コミュニティ再生・活性化支援事業のご紹介



地元大豆で昔ながらの製法で造った「平家豆腐」
(富山県南砺市) p8

● 表紙の写真

- 右 : 五葉山火縄銃鉄砲隊の里の母ちゃん達 (岩手県住田町) p9
- 左上 : 幸福ホームランメロンオーナー (熊本県あさぎり町) p11
- 左下 : 第4回 土谷棚田火祭り (長崎県松浦市) p17

【特集】田舎暮らしを支援する取り組み

近年、自然に囲まれた農村での生活が注目されていることから、田舎暮らしへの関心が高まっています。本号では、「田舎暮らしを支援する取り組み」をご紹介します。

たかはた田舎暮らしサポートの会 山形県高畠町

「たかはた田舎暮らしサポートの会」は、田舎暮らしを希望する都市在住者の方々に、居住空間の提供をお手伝いします。具体的な活動は、地元産木材を使ったログハウスの建設を土地の取得から建物の完成まで総合的にサポートすること。現在3名のメンバーが高畠町で暮らしてみたいという方のご相談に応じていますが、将来的には地域ビジネスとして成り立たせたいという夢を持って活動しています。

ただし、会の目的は、ログハウスの建設で利益を得ることではなく、地元産木材を活用することによる森林の環境保全。地球温暖化の原因のひとつとなっている森林の荒廃をなんとかできないかという思いが、会設立の動機となっています。

「高畠町に本気で住みたいという方には、できる限りのサポートをしたいと考えています。ぜひ高畠町を一度訪れてみてください」と話すメンバー。きっと心強いサポーターになってくれるはずです。

<http://www.takahata-inakagurashi.org/>



甲斐敷島梅の里クラインガルテン 山梨県甲斐市

真正面に富士山、隣には矢木羽湖、そして梅畑に囲まれた「甲斐敷島梅の里クラインガルテン」が、平成17年8月にオープンしました。現在、滞在型30区画の利用が開始されています。さらに平成19年には、日帰り型25区画がオープン予定となっています。その他、甲斐市では、“農”を楽しむ倶楽部もたくさんあります。

農園で野菜を作り、美しい庭造りを楽しみ、家族で土いじりをして週末を過ごすなど、素敵なクラインガルテンライフが楽しめます。

<http://www.city.kai.yamanashi.jp/index2.html>



週末田舎暮らし四賀クラインガルテン 長野県松本市

松本市四賀クラインガルテンは、滞在型の市民農園です。131区あるすべての区画には、100㎡前後の畑と休憩小屋1棟が付いており、利用も1年毎の賃貸形式なので、気軽に農業が楽しめます。ただし、利用条件として、有機無農薬で畑の作物を栽培しなければなりません。しかし、農作業の講習会や指導会があり、初心者でも安心できます。

クラインガルテンは地元との交流も重要視していて、田舎の親戚制度という独自の制度もあります。これは、利用者と地元住民が1対1の関係で親戚となり、色々なサポートや交流を行うというものです。

利用者のほとんどは都市部に住んでいる定年前後の方で、野菜や花などを育てています。皆さん農業が初心者だった方々ですが、利用年数を重ねるうちにプロ顔負けの作物を作るようになります。特に、有機無農薬で栽培した野菜は、都会のスーパーなどで購入するものとは大違いの美味しさということで、ご近所でも評判の野菜になるということです。

<http://www.city.matsumoto.nagano.jp/buka/soumubu/siga/kurain/index.html>



佐渡市空き家対策事業

新潟県佐渡市

佐渡市は日本海の中央に位置し、四方に美しい海が広がる自然豊かな島です。島の面積は東京23区の1.5倍以上あり、大変広々としていますが、人口は近年の急激な過疎化によって減少傾向が続いています。

現在、佐渡市では、定住対策の一環として佐渡島内の空き家情報をホームページで公開し、佐渡へのUターンを希望される方を対象に入居希望者を募っています。最近では、若い頃の思い出の地として、佐渡への移住を希望される団塊の世代の方が多くなっており、既に佐渡で第二の人生を楽しんでいる方もいらっしゃいます。

ぜひ皆さんも、自然のめぐみと人びとのうらおい、芸能と文化があふれる島、「佐渡島」でゆったり暮らしてみませんか。

http://www.city.sado.niigata.jp/sado_web/contents/kikaku/akiyatop.htm

「しんこうタウン」分譲とレクリエーション農園「薬神の里(やくじんのさと)」
兵庫県神河町

兵庫の真ん中に位置する「神河町」では、JR播但線「新野駅」沿線で全61区画の「しんこうタウン」を整備しています。駅まで徒歩10分という、田舎でありながら利便性を併せ持った優良宅地となっています。現在、第1期分譲の18区画が整備済みで、あと6区画が残っています。

この付近ではレクリエーション農園「薬神の里(やくじんのさと)」があり、四季折々の農作業を体験することができ、収穫時にはさつまいもなどを持ち帰ることができます。また峰山・砥峰高原～笠形山・千ヶ峰県立自然公園の麓には、清流が流れ、自然と親しめる観光施設がいくつも点在し、毎年多くの都市住民が訪れます。

神河町では、きれいな水と空気、自然の中での農作業体験、田舎と利便性を兼ね備えた環境での定住促進・田舎暮らしを応援していきます。

http://www.town.kamikawa.hyogo.jp/kikaku/sinkou_town/

城下町おおのに住んでみませんか
～城下町おおの定住促進事業～

福井県大野市

大野市では、平成17年4月1日から平成20年3月31日までの間に、新しく市内に住まわれる方に住宅の購入費等を助成しています。

対象は、本人及び同居人全員が、初めて4月1日以降に転入届をし、新築・中古住宅を取得された方です(過去に市内に住んでいた方を除く)。補助金額は、新築の場合が、取得金額の1/20(上限100万円)、中古住宅を取得した場合が取得金額の1/10(上限50万円)です。

また、中心市街地において、共同住宅を建築される方や大野市への転入者に空き家を賃貸される方に対しても助成を行っています。

いずれも一定の条件がありますのでお問合せ下さい。
<http://www.city.ono.fukui.jp>



わがまち自慢

全国で唯一のもの、自称日本一のもの、ぜひ知ってもらいたい活動や人など、地域からの自慢情報を紹介します（人（グループ）、施設、風景、自然、生き物などジャンルは問いません）。

冬の使者

宮城県栗原市

ラムサール条約の登録湿地の伊豆沼・内沼は、ハクチョウとガンの飛来地となっており、世界有数の貴重な自然の宝庫です。仙台平野の中で大きな広がりを見せる伊豆沼は、遠くから渡ってくるたくさんの野鳥には格好の目印となっています。

伊豆沼・内沼でしか見られない鳥の代表が「ガン」です。伊豆沼はマガンの越冬地として有名で、冬になると約11万羽のガンが日本に飛来し、その約80%がここで冬を越します。シジュウカラガン、カリガネ、サカツラガンなど、珍しい種類のガンもやってきます。朝日を受けて一斉に沼を飛び立つマガンの大群。夕焼けの頃V字型の編隊で続々戻り、湖上で木の葉が落ちるように沼に吸い込まれます。

ハクチョウは毎年10月末から3月下旬まで、ガンは9月下旬から2月上旬まで、それぞれ見ることができます。

マガンは毎朝餌を拾いに出かけるために沼を一斉に飛び立ちます。その羽音で何も聞こえなくなり、空はガンで埋め尽くされます。このような光景が見られるのは、伊豆沼・内沼だけです。



蛭が飛び交うまちの復活

岐阜県岐阜市

岐阜市北部の西郷地区を流れる板屋川には、昔、たくさんの蛭が見られましたが、昭和36年頃から川の水質が悪化し、蛭が現れなくなりました。

しかし、昭和40年代の半ばに10数匹が目撃される

と、「何とか蛭の飛び交う姿が見たい」と、自治会が中心となり、餌であるカワニナの放流を始めたのを契機に、「西郷の蛭保護育成推進協議会」が結成されました。昭和63年から平成5年にかけて「蛭まつり」を開催するまでに至り、川沿いには露店も出て、多くの見物客で賑わいました。この間には、地域でのゲンジボタルの保全活動が認められ、当時の環境庁から「ふるさといきものの里」の認定を受けました。

が、何故か再び蛭は姿を現さなくなりました。そこで、地域と西郷小が連携し幼虫の養殖に取り組み始めると、その努力が実ったのでしょう、昨年には、板屋川の2kmほどの区間にわたり多くの蛭が飛翔！平成17年6月には「蛭まつり」が復活し、500人ほどの見物客で賑わいました。地元の人々は訪れる見物客を交通整理し、蛭の保護を呼びかけました。

http://www.pref.gifu.lg.jp/community/com999998001040_top.html



水を生かしたまちづくり

岐阜県大垣市

大垣市は、日本列島のほぼ中央、濃尾平野の北西部に位置しており、人口約15万人の岐阜県第2の都市です。市内には14の1級河川が流れ、豊富で良質な地下水が生活や産業を潤すことから「水の都」と呼ばれています。

洪水常襲地帯にある大垣市は、「輪中」を築造し、低地にある集落や耕地を洪水から守っており、現在でも輪中堤は数多く残っています。また、輪中では、洪水に備えて屋敷の一部を高くした「水屋」が建てられ、現在でも残っています。市内を流れる水門川は、近世以来、活発な水運を支え、大垣発展の原動力となってきました。近世には、水門川が美濃路と交わる船町港に、多くの物資が陸揚げされました。また、明治初年まで、中山道と美濃路の呂久・沢渡の渡しなど、多くの渡船場が設けられていました。

また、大垣市は、全国でも有数の自噴帯に位置して

います。この自噴水を、ガマ（河間）と呼んで、つい近年まで各家庭では井戸舟を持ち、自噴水を活用していました。用水型工業の発展により、昭和30年頃から湧水が減少しましたが、現在は地盤沈下対策の揚水規制などにより、市内各所に湧水が見られるようになりました。

本市では、この豊富な水を地域資源として、「芭蕉水御膳」や「水まんじゅう」といった特産品の開発やPR、市内各所に湧く自噴井の整備、水を生かしたまちづくりについて、市民、ボランティア団体、事業者、行政がともに考える「湧くわく水サミット」の開催、良質な水を後世に伝えるための環境保全活動など、様々なまちづくり活動に取り組んでいます。

<http://www.city.ogaki.gifu.jp>



田んぼの学校inひとよし

熊本県人吉市

平成17年10月16日、人吉市で人吉球磨地域土地改良区連絡協議会主催「田んぼの学校inひとよし」が開催されました。このイベントは、人間や動植物に欠かせない水が持つ多面的機能について理解を深め、自然の大切さを体験し、土地改良区の役割・機能について理解を深めてもらうことなどを目的としています。

当日は晴天に恵まれ、86人の親子が「御溝（おみぞ）」と呼ばれる水路沿いに約5kmウォーキングを行い、途中では水路のごみ拾いや水遊びを行いました。昼食後は、昔ながらの竹の水鉄砲づくりを行うなど、子供たちも楽しんでいました。参加者のみなさんは、「自分の住んでいるまちながら、大発見の連続でした。」「このようなイベントを続けると、もっと多くの人が関心を持って美しい川になるのではないか。」「今後もぜひ参加したい。」と感想を述べられ、大変好評でした。

愛知万博の原点「海上の森」を市民、地域協働で保全活用 愛知県瀬戸市

昨年3月から9月にかけて愛知県で開催された2005年日本国際博覧会は、環境を主たるテーマとし、多くの市民が参加した博覧会として世界に発信され、入場者数は2200万人を超えました。

この博覧会の原点と言われるのが「海上の森」です。会場計画の議論の中で、多くの人々の注目を集め、自然への関心を呼び起こす場ともなり、将来にわたって保全活用されることとなったこの「海上の森」は、都市の近郊にありながら、広くまとまった森林とその中に水辺、農地等があり身近で多様な自然があります。この「海上の森」において、市民、地域の協働で、里山保全等の活動、参加体験を通じた学びと交流の場づくりが進められています。

森や里のあり方をめぐる意見の相違を対立ではなく、交流と模索、そして何よりも主体的活動をもって乗り越え、共に学びあい、発展しようと様々な活動が始まっています。<http://www.pref.aichi.jp>



わがまちの旨いもん

地域の特産物や名物料理（レシピ）の紹介など、「食」について紹介します。

第1回ゆうばり料理コンテスト 北海道夕張市

夕張市では、地元夕張市の食材を使ったアイデア料理で腕を競う「第1回ゆうばり料理コンテスト」が開催されました。市の新しい観光名物に活かそうと企画したもので、親子など8組が参加し、ヤーコンや長いもなど夕張の特産素材を活用したオリジナリティ溢れる料理が並びました。

厳しい審査の結果、最優秀賞に選ばれたのは、家庭菜園で採れた大豆、ゴボウ、ニンジンなどの野菜を使った「大豆ハンバーグ風コロッケ」。優秀賞には、夕張産長いもを使った「ゆうばり寅次郎だんご」が選ばれました。



麻法（まほう）のえごま 宮城県色麻町

町内の資源を見直し、将来性のある特産作物として「えごま」に注目し、開発商品化して8年が経ちました。えごまは健康に良いということに加え転作田で栽培できるというメリットがあり、昔から「じゅうねん」とも言われ身近な食べ物でもありました。

「しかもおいしい地域づくり」活動のひとつとして、えごまを使った料理コンテストを開催し、特に好評だった料理を紹介します。

<http://www.town.shikama.miyagi.jp/egoma/egomaryouri.htm>

●えごま入りホットケーキ

【材料】

小麦粉180g、砂糖20g、卵1個、
すりえごま10g、牛乳150cc、
ベーキングパウダー・塩・はちみつ 少々

【作り方】

- ①卵をときほぐし、牛乳と混ぜておく。
- ②小麦粉・砂糖・ベーキングパウダー・塩・えごまを混ぜ合わせ、この中に①を加え、さっくりと混ぜる。
- ③熱したフライパンに油を薄くしき、ぬれ布巾の上で少し冷まし、生地を流し、弱火で焼く。



雪国の伝統の味覚「いぶりがっこ」 秋田県横手市

干した大根の漬物は保存食として古くから作られ、親しまれていました。内陸部では降雪のため外で干すことができず、家の囲炉裏で干した大根を漬け込んでいました。この燻（いぶ）した大根のたくあん漬が「いぶりがっこ」です。今では囲炉裏もなくなり、専用の燻し小屋で燻されていますが、初雪の降るころに小屋小屋から立ち上がる煙も一つの風物詩になっています。45日程で漬けあがり、お正月頃からは食卓に並び彩を添えます。

今の「いぶりがっこ」は保存食から“燻した漬物を楽しむもの”になり、燻す木も桜等の良い香りを出すものに変化し、更に美味しさが増しました。昔は自家用が主体で販売と

いっても桶売りだけでしたが、真空パック技術も一般的になり、遠くの方にも送り届けることができました。

一度味わうと癖になると言われる「いぶりがっこ」をぜひお試しください。

<http://www.city.yokote.lg.jp/>



おいしさにはわけがあります 「大口れんこん」 新潟県長岡市

新潟県の中央部・中之島の大口地区は窒素分が多く稲作に不向きな土壌でしたが、逆にれんこん栽培にとっては最良の条件でした。そこに目を付けた先人が栽培を始め、現在では新潟県を代表するれんこん産地となり、「大口れんこん」というブランドもできるまでにになりました。

大口れんこんの特徴は、煮ても黒くならない白い肌、シャキシャキした歯触りです。また、最近はれんこんの先端の柔らかい部分を集めた、「やわらか芽れんこん」も大変好評を得ています。

れんこんの生産農家は、たくさんの方々にもっと手軽においしく味わってもらうことを目標に、日夜味わい深いれんこんをつくり続けています。ぜひ、こだわりの大口れんこんを賞味ください。

地元の大豆で昔ながらの製法で造った 「平家豆腐」 富山県南砺市

平家伝説や世界遺産相倉合掌集落で知られる「五箇山」地区に、昔から伝わる堅豆腐の製法を取り入れてできたのが「平家豆腐」です。原材料は礪波平野の良質な大豆（エンレイ）を使い、天然にがりで固め消泡剤を使わず自然の風味を大切にしました。国産の菜種油を使った油揚げや、揚げの味噌漬、揚げのキムチ漬なども新商品として開発しました。

五箇山にお越しの際には、ぜひ手造り豆腐を味わってみてください。

<http://www1.tst.ne.jp/nekokura/>



ご当地カレーの決定版 薬膳カレー 富山県上市町

薬膳とは、中国5千年の歴史の中で人々が自ら臨床体験して実証し、今日まで伝承されてきた中国医学に基づく食養生・食治法をいい、豊かな自然に育まれた素材を活かし、その栄養をバランスよく摂取することこそが、健康づくりの基本であると教えられています。

この「薬膳カレー」は、47種のスパイス・ハーブをベースとして、キトサン、3Aカルシウムといった成分を加え、さらに環境省選定全国名水百選の一つで、古来より万病に効くといわれる、「穴の谷の霊水」でそれらをブレンドしました。また、肥沃な土壌で育った当町特産の里芋をつかい、化学合成添加物一切なしの文字どおりの「健康志向のカレー」として仕上がっており、ぜひご家族揃ってのご愛食をお薦めする一品です。

- お問合せ：上市町観光協会（上市町役場産業課内）
TEL: 076-472-1111（内線330）
- 販売価格：1個 400円



岐阜スローフードコンテスト2005 岐阜県岐阜市

岐阜市では、効率性や機能性一辺倒のライフスタイルを見直し、人間らしさを取り戻したゆったりした暮らしを楽しむスローライフ運動を提唱しています。

その一環として、市民団体との共催による「岐阜スローフードコンテスト2005」を実施しました。次の2点をテーマに朝食一食分のレシピを募集したところ、9歳から64歳までの幅広い年齢層から365件もの応募がありました。

- ①岐阜の特産物を指定食材(大根、ほうれん草、枝豆、人参、柿)として使用する“地産地消”

②朝食の欠食などの不規則な食事や偏食などによる栄養バランスの崩れといった食生活を改善する“食育の推進”

今後は、お寄せいただいたレシピを活用して、スローフード・スローライフ運動の市民生活への浸透を目指していきます。

<http://www.city.gifu.gifu.jp/slowfood/2005.html>



ヘルシーな油「ひまわり油」を是非一度 兵庫県佐用町

昨年9月に放送されたTV番組で、南光の“ひまわり油”が紹介されました！また、安全な食品を手に入れるためのガイドブック「食べたい、安全！」でも、考えられる安全・環境対策のほとんど全てを満たした食品として、最高ランクの☆☆☆をいただいた南光のひまわり油。オレイン酸・ビタミンEを多く含み、栄養豊富な安全・安心の食用油です。ぜひお試しください。

また、「ひまわり館ふるさと会員」を募集中！入会金1,000円で入会記念として、ひまわり油を1本進呈。会員特典は、ひまわり祭りなどの案内や会員価格での特産品購入など多数あります。

<http://www.sayou.gr.jp/himawarikan/>



じゃこ天

愛媛県八幡浜市

じゃこ天は、宇和海で獲られた新鮮な小魚を骨ごとミンチにかけ、すりつぶしてすり身にし、油で揚げられています。その独特の味わいと素朴な風味は、天然カルシウムをたっぷり含んでおり、栄養価の高い健康食品として大変喜ばれています。

<http://www.city.yawatahama.ehime.jp/Osyoukai/tokusan/index.html>

●おいしい食べ方

- ①そのままでも、フライパンに軽く油を引いて加熱してどうぞ。
- ②薄切りを大根おろしでいただくのも風味が増しておつな味わいです。
- ③おでん、うどん、炊き込みご飯、ちらし寿司の具など、いろいろな料理にご利用いただくと一層おいしさが増します。



私達、輝いています

地域で活躍している女性（グループ）の取り組みを紹介します。

五葉山火縄銃鉄砲隊の里の母ちゃん達 岩手県住田町

平成13年、1人の母ちゃんが自分で作った南蛮等を使った「麴なんばん」をつくり、地域の方々に振舞ったのが「火縄の里母ちゃんの会」の始まりでした。名前の由来は、岩手県沿岸南部のこの地域にある霊峰・五葉山が、藩政時代、伊達藩直轄の「御用山」として手厚い保護下にあり、巨大鉄砲藩と恐れられていた伊達藩の「火縄」が、この山から産出されたヒノキを原料に造られていたからでした。

地域の方々から大好評だった麴なんばん。初めは「売るなんてとんでもない」としり込みしていましたが、地域の方々や行政の後押しによって、3人の母

ちゃんて手作りの工房を完成させました。昨年の春、イベント等にも出品しようとお菓子の製造許可も取得し、今では「どうしたらもっと喜んでもらえる商品になるかということばかり考えてる」「はりあいができた」「1回しかない人生だもの」と笑顔がこぼれます。

3人そろって「工房を始めなかったらピンクや赤い服なんか着ることなかったべなあ〜」・・・青春再来中！（表紙に写真を掲載）

の助言を受けながら季節の野菜を持ち込みましたが、今ではそれぞれのメンバーが加工所の許可を取得し、自分の栽培した米や野菜、果物を使った「赤飯」「ちまき」「キムチ」「ジャム」などを販売しています。また、地域の人に商品を紹介して意見や感想を聞くなど、積極的に地域の人との交流も深めています。

農協などの直売所やイベントに参加するなど、明日の農業を背負って3人は頑張っています。



ふるさとの味を届けて21年『町生活改善クラブ連絡協議会』 宮城県色麻町

町の特産品の一つである「かっぱ御前みそ」をはじめ、懐かしいふるさとの味を全国に発進して21年。8団体45名の女性が共に手を取り工夫を凝らした『ふるさと福袋』は毎年12月下旬に発送しています。地元産の材料にこだわり加工した商品を、自信と真心をこめて提供することに生きがいを感じているからこそ、長い間続いていると自負しています。

年々会員は減少傾向にあります。おば(あ)ちゃんパワーで30年、いえ50年を目標に夢を贈り続けたいと、はりきっています。

<http://www.town.shikama.miyagi.jp/tokusan/hukubukuro-tokusan.htm>



地元「明宝」に古くから伝わる郷土食や伝統食の見直しや再現、各種イベントでの味の提言等 岐阜県郡上市

私たち「ビスターリマーム」は、明宝の民宿・旅館の女将11人で平成12年から活動しているグループです。「ビスターリ」とはネパール語で“ゆったり”と“か”の“のんびり”という意味、明宝を訪れたお客様に“のんびり明宝を楽しんでいただきたい”という気持ちを込めて名づけました。

主な活動は、多くの人に明宝の魅力を伝えること。郷土食や、伝統食の見直しや再現、各種イベントでのビスターリならではの味の提案、提供。また、グリーン・ツーリズムのツアーの受け入れにも力を入れています。

目指すは、「明宝全体で一軒の宿」。お客さんに心より喜んで帰ってもらえるよう、活動を続けていきます。ビスターリマーム 代表 石田賀代子

<http://www16.ocn.ne.jp/~vistari/>

アグリネット

新潟県柏崎市

作った野菜を近所に配っても、もらった方が同じものを作っていたりして迷惑になる場合もあります。

そこで、同じ思いを持った農家3人が、地元スーパーでの販売を半年～1年がかりで交渉し、平成15年、新鮮・おいしい・安全な地元野菜として店頭で陳列・販売してもらうことに成功。これが、農家3人によるアグリネットの幕開けです。

当初は、スーパー担当者から、値付け、内容量など

コミュニティーガーデンで花いっぱいの大垣へ 岐阜県大垣市

私たちは、大垣市のコミュニティーガーデン事業に参加するために結成した、お花好きの花飾りボランティアグループ「2005園芸の会」です。

コミュニティーガーデン事業とは、一定の条件もとで、市内の公共緑地に造成した花壇を活用して、参加団体が自由にレイアウトや花の種類を考え、花や木の植栽から、水やり、消毒、耕作などの育成・管理までを一貫して行うものです。事業では、「しあわせいっぱい 花いっぱい」をテーマにして、いつかは大垣市も花いっぱいのまち「ガーデン・シティ」になることを願い、花壇を見にきてくださる方々のことも考えながら、工夫して活動しています。

将来的には、花壇を囲んでティーパーティーを開いたりして、お花が好きな方々と交流までできたらいいなと思っています。コミュニティーガーデン事業以外にも、さまざまな活動を行っていますので、みなさんぜひ応援してください。

<http://www.city.ogaki.gifu.jp/>



特産品加工グループ「エスペランス」 愛媛県西条市

エスペランスグループは、柿の産地である愛媛県西条市田滝地区の、柿農家の主婦5名で結成された特産品加工グループです。「地域の活性化」「余剰柿の有効利用」を目的に平成8年から活動を開始し、試作研究を重ねて、平成12年には、菓子の営業許可を取得しました。直販所や道の駅で柿羊羹、柿ジャム、柿の葉茶の販売を始め、好評を得て売上げを伸ばしています。

農繁期は、寝る間を惜しんでの仕事になることも多いのですが、5人が集まって作業することで、かえって元気が出て楽しく頑張っています。これまで県内の

惣菜屋に出荷していた干し柿を、今年は地域の柿農家全体での取り組みができるよう地区の柿生産出荷組合に働きかけ、地域の活性化を図ろうとしています。

農作業はもちろんのこと、ふるさと小包「土のめぐみ」の発送や、県内のイベント参加、加工食品の試作研究と日々忙しいですが、とにかく元気に賑やかに、いつもパワー全開！で輝いている「エスペランスグループ」です！



交流・連携通信

都市農村交流や交流相手の募集など地域間交流活動を紹介します。

幸福ホームランメロンオーナー

熊本県あさぎり町

全国で唯一「幸福」という名の付く駅として知られるあさぎり町の「おかどめ幸福駅」近くにホームランメロンハウスがあります。このハウスでは、生産者と消費者との交流を目的に、2株以上のオーナーを募集しており、オーナーになると、農家からの栽培方法の説明やメロン苗の生育状況を確認する現地見学会やゴールデンウィーク頃の収穫が体験できます。

メロンの収穫期には、メロンの他に、旬なイチゴやフルーツトマトの収穫体験、物産販売も行っており、ゆっくり過ごすためには町内にある農家民泊も楽しめます。（表紙に写真を掲載）

<http://www.asagiri-town.net/>

風味豊かな自慢の玄そば

福井県大野市

大野市は、福井県内でも有数のそば産地で、風味豊かな大野在来種の玄そばを栽培しています。その中でも阪谷地区は、特に寒暖の差が大きく極上のそばが生産されています。

この阪谷地区のほぼ中央に「スターランドさかだに」があります。この施設は、都市と農村との交流の場、地域活性化の拠点施設として建設されたもので、阪谷地区の住民で組織する振興会が運営し、地元のそば打ち名人が指導するそば打ち体験や、芋掘りやイチゴ摘みなどの農業体験ができます。また、大野産のそばや醤油、野菜を使用したおろしそばをはじめとした郷土料理の提供や特産物の販売も行っています。

田園に囲まれ、市街地が一望できる環境の中で、ゆったりした気分でそば打ち体験や手打ちのそばを味わいながら、地元の人たちとの会話を楽しんでみませんか。

<http://www.hokuriku.ne.jp/starland/>



す。ぜひ一度、「かどのの郷」へお越しください。

●所在地：兵庫県丹波市氷上町上新庄445-4

遊休農地を活用した「さつまいも作り
チャレンジ農園」 鹿児島県鹿児島市

鹿児島市下田町の「さつまいも作りチャレンジ農園」で、昨年10月29日、家族連れの市民ら170名が参加して収穫祭が行われました。

地域住民の手伝いをもらいながら、5月下旬に自ら植え付けたさつまいもの収穫が始まると、園のあちこちで大きないもが姿を現し、子ども達の歓声が上がりました。収穫後、参加者は焼き芋やいものでんぷらを試食しながら、地域住民との交流を深め、「大きないもを収穫して楽しかった」とか、「味がほくほくしておいしかった」などの感想を述べていました。

この取組は、鹿児島市下田地区むらづくり委員会が鹿児島市郡村づくり連絡会とタイアップし、遊休農地を活用した体験農園による都市農村交流と「さつまいも伝来300年記念イベント」の一環として実施されたものです。

同委員会は、こうした取組を引き続き行い、農業・農村に対する都市住民の理解をより一層深めていきたいとしており、本年は、さつまいもと落花生のチャレンジ農園を開設する予定です。

<http://www.pref.kagoshima.jp/home/noshinka/mura/>

都市との交流で地域の活性化を目指す
「かどのの郷」 兵庫県丹波市

丹波市西小学校区の11集落が結集した自治会が母体となって、村おこし、町おこしを実践する「元気村かどの」と称する地域住民グループを立ち上げました。「コスモスまつり」や「かたくりまつり」などのイベントを開催し、多くの観光客を招致するなど活発な活動を続けています。近年では、都市との交流も実践し、大阪府八尾市のグループと相互交流を図り、農業体験や収穫まつりを催すなど、子供から老人までが参加できる活動を展開しています。

本年4月には、地域住民はもちろんのこと都市住民も活用できる施設「かどのの郷」交流センターがオープンし、更なる地域おこしを展開します。新たな交流相手も募集していますので、ご連絡をお待ちしていま

Let's 農業

地域で新たに就農された方の体験談や、農作業体験などの活動内容・参加者募集を紹介します。

有機農業体験プロジェクト

岐阜県大垣市

大垣市環境市民会議では、大垣市環境基本計画に基づき、望ましい環境像「ハリンコが泳ぎ、ホタルが舞う水都・大垣」の実現に向けて、市民・事業者・学識経験者・行政の協働組織として活動しています。

最近、「食」に対する安全性について種々の問題が話題となっており、特に輸入野菜類の残留農薬については大きな社会問題となっています。国内でも、農薬の問題は「食」の安全性を脅かすだけでなく、環境破壊や農業従事者の健康被害を生んできました。

現在の社会体制や生産・物流・販売の仕組みからすると、一朝一夕に解決する問題ではありませんが、多くの市民が農薬や化学肥料を一切使用しない自然農法を学ぶことで、本来の「食」のあり方を知ると共に、土に触れることで自然の豊かさや偉大さ、旬の美味しさに気付く場を提供したいと考え、毎年参加者を市民公募し、一年間の有機農業体験を実施しています。

<http://www15.ocn.ne.jp/~eco-sta/>



アンテナショップ情報

地域の特産物が身近に購入できるアンテナショップやテナントを紹介します。

東村山逸品倶楽部2005

東京都東村山市

商工会では、市内各商店の「こだわりの商品・サービス」を、逸品カタログ「東村山逸品倶楽部」に収録し発行しました。普段何気なく通っている地元商店街にも、店主こだわりの「逸品」が多くあります。「東村山逸品倶楽部」は、このような逸品をより多くの方々に知って頂くとするものです。

カタログの内容は、「飲食・食品販売・物品販売・

暮らし、サービス」などに分類、逸品の特徴や店主のメッセージが載っています。カタログは全戸配布し、市民投票による「逸品コンテスト」を行い、上位の商品等には商標登録「里に八国」ブランド品として位置付けました。今後は、東村山ブランド品カタログを作成し、広く市内外へのPRを計画しています。

<http://www.city.higashimurayama.tokyo.jp/>

松阪農業公園ベルファーム「匠の館」内『松阪商会』
三重県松阪市

松阪農業公園ベルファームは、「地産地消」「スローフード」を基調とした消費者への「食育の場」と、植物の成長や作物の収穫などを通じ自然のめぐもりを体感する「緑育の場」を提供しています。

このベルファーム「匠の館」内にある『松阪商会』では松阪肉や松阪赤菜など、松阪の農産物や特産加工品などを一堂に集めて販売し、情報を発信しています。また、モロヘイヤを麺にねり込んだうどんが味わえる「田舎の味処 うきさとむら」や、ここでしか味わえない松阪肉などを使ったオリジナルジェラートを販売する「ジェラート・ベル」など、ベルファームならではの逸品をご堪能いただけます。

ぜひ、ベルファームで四季折々の花や緑を楽しみ、自然とのふれあいを深め、農の営みを体験し、「育てのストーリー」を五感で感じてみてください。

<http://www.bellfarm.jp/>



漁協直営販売所漁協直営食堂「漁師の味『港あおしま』」 宮崎県宮崎市

平成14年7月に隣り合う青島漁協と内海漁協が合併して誕生した宮崎市漁協は、新事務所に以前からあった直売所を移し、さらに平成17年11月3日には漁協の念願であった直営食堂「漁師の味『港あおしま』」をオープンしました。

両施設とも「青島どれ」の新鮮な魚介類を市価よりも安く提供しており、市内外から「青島どれ」を求めて、多くのお客が訪れ賑わっています。これまで、漁協に足を運ぶのは限られた人だけでしたが、今では、夫婦や家族連れなど多くの方が訪れており、後継者不足や燃油の高騰など厳しい状況もある中、組合員・漁協職員一同、何度もお客さんに足を運んでもらえるように頑張っています。



わがまちのユニーク施策

市町村において独自に取り組んでいる施策を紹介します（地域おこしなどジャンルは問いません）。

スキー場に観光菜園設置

石川県白山市

平成17年2月、日本三名山の白山や白砂青松で綺麗な日本海など自然豊かな地域である白山市が誕生しました。この豊かな自然の恩恵によりおいしい特産品も多くあります。また、市営のスキー場もあり、1年を通して楽しめます。しかし、スキー客の減少により、スキー場の経営は大変厳しい状態に陥っています。

そこで、白山一里野高原スキー場周辺の民宿・旅館の経営者達が年間を通してスキー場に観光客を呼び込もうと、スキー場にうどやワラビが採れる「観光菜園」を設置しました。料金や運営方法等を十分検討し、多くの方に来ていただけるようがんばっています。また、これらの山菜を白山市のブランドとして、売り

込もうと加工品の開発等にも力を入れていくことにしています。



安全・安心なカミツレを栽培しています 岐阜県大垣市

大垣市では、薬草のカミツレ（カモミール）を栽培しており、その生産量は日本一を誇っています。昭和59年に大垣市薬草組合を設立し、現在では組合員17名で約2haを栽培しています。収穫されたカミツレは、東京に本社を持つカミツレ研究所に出荷し、入浴剤や石鹸といった製品となって多くの消費者に喜ばれ利用されています。

栽培は機械化が困難で、収穫までが全て手作業となっていることや、品質向上のために無農薬・無化学合成肥料での栽培を進めているため、生産者の増加や栽培面積の拡大にすぐには繋がりませんが、消費者のニーズに応えるため、その質にこだわって栽培しています。

市では、組合員の栽培意欲や単位収量を向上させるための各種研修会を開催するとともに、市民の薬草に対する認識を高めるために、カミツレを使った「クッキー作り」や「アロマキャンドル作り」といった市民参加型のイベントを行い、多くの市民にPRを行っています。

今後とも、大垣の薬草の代表であるカミツレを始め、広く薬草の良さを伝えていきたいと考えています。



ツシマヤマネコと共生するまちを めざして 長崎県対馬市

1月9日から11日にかけて、国の天然記念物で絶滅の危険性のあるツシマヤマネコを守るため「ツシマヤマネコ保全計画づくり国際ワークショップ及び市民ワークショップ」が開催されました。

国際ワークショップでは、3日間の集中的な討議が行われ、専門家により野良猫や家ネコからの感染症（ネコエイズ等）対策や種の保存のための科学的検討が行われました。また、ツシマヤマネコと共生する地域社会づくりをどう進めるかについて、専門家・市民代表（農業者や商工業者等）・行政機関などがグループになり、ツシマヤマネコの保全のためには、ヤマネコの知識、保護に対する意識づけ、ヤマネコにとって安心安全な農林業の振興、そしてともに暮らす地域住民の生活向上も欠かすことのできない要素であることが分かりました。

そのための行動計画として、ヤマネコに配慮した基盤整備やエコファーマーなどの環境保全型農業の推進、地元農産物をヤマネコブランドとして認証し販売促進する、体験型観光の創出など振興策を検討しました。その後、市民ワークショップで市民の方々へ今後の協力をお願いしました。



Let's Go 人吉球磨！！ 熊本県人吉球磨地域

人吉球磨地域は、日本三大急流の球磨川や温泉に代表される豊富な自然と相良700年の歴史・文化に培われた独特の文化圏を有しており、農林業が盛んな地域です。

この豊かな自然と文化に恵まれている地域資源を活かそうと、昨年6月と10月に、民間と行政がパートナーシップを組んで、英国でグリーンツーリズムの先進地研修を行いました。

この研修成果を地域に根ざしていくために、これまで、報告会の開催やワーキング等での議論を積み重ね

ながら、当地域の10市町村が一体となった広域連携の取り組みを進めているところです。グリーンツーリズムに関しては、これから発展途上というところですが、今後、民間、関係団体及び行政が連携しながら、広域連携でのメリットを活かすことで、当地域の様々な地域資源のすばらしさを今後全国に発信していきます。ご期待下さい！！



イベント情報

平成18年4～6月に全国各地で開催が予定されているさまざまなイベントを紹介します。記事を読んで興味を持たれた方は、ぜひ一度現地を訪れてみませんか。

おおがわら桜まつり

宮城県大河原町

大河原町の桜の名所「一目千本桜」は、白石川沿いに8kmも続く、樹齢80年余り・合計約1,100本の“桜のトンネル”です。さくらの名所百選や遊歩百選の地に選ばれ、全国から30万人以上の人出があり、東北を代表する桜の名所となっています。

毎年4月上旬から中旬にかけての開花時期に合わせて、「おおがわら桜まつり」が開催されます。期間中は、各種出店、夜桜ライトアップ実施、お花見屋形船の運航、新鮮野菜市や郷土芸能上演などの特別イベント開催など盛りだくさんの内容です。特にお花見屋形船は、桜まつり会場から下流の堰まで往復約2.2kmを約30分で運航され、船上からの一味違った桜並木がお楽しみいただけます。また、桜並木沿いを走るJR東北本線の普通電車は、時速約35kmの徐行運転を行います。

皆様、今年の春は大河原町にぜひお越しいただき、「桜のトンネル」を歩いてみませんか？

<http://www.town.ogawara.miyagi.jp/>

- 開催日時：4月上旬から中旬（予定）
- 開催場所：白石川右岸河川敷公園
- 問合せ先：大河原町観光物産協会
TEL:0224-53-2507



名草ホタルまつり

栃木県足利市

「名草源氏ホタル保存会」が、地域ぐるみでホタルの保護と養殖に取り組み、近年では約1,000匹のホタルが飛ぶようになりました。ホタルまつり期間中は、ホタルの見物と合わせ、地元特産品の販売なども行っています。

- 開催日時：6月中旬～下旬
- 開催場所：足利市名草地区他
- 問合せ先：名草源氏ホタル保存会・名草公民館
TEL:0284-41-9977

塩船観音つつじまつり

東京都青梅市

“花と歴史の寺”塩船観音寺はつつじの寺として有名で、三つ葉つつじ、山つつじ、みやまきりしまなど、約2万本のつつじがところ狭しと植えられており、盛りの時期には美しい景観が広がります。また、5月3日の火渡り荒行には大勢の参詣客が訪れます。

<http://www.omekanko.gr.jp>

- 開催日時：4月8日(土)～5月中旬
- 開催場所：塩船観音寺
- 問合せ先：青梅市商工観光課
TEL:0428-24-2481



河口湖ハーブフェスティバル

山梨県富士河口湖町

毎年6月下旬から7月上旬にかけて実施するイベントで、河口湖畔の八木崎公園と大石公園に咲く約10万本のラベンダー（紫色の絨毯）をご覧いただけます。八木崎公園では、ガーデニングコンテストや土日を中心にステージイベント、7月第1土曜日には花火大会も行われます。大石公園は、富士山と湖とラベンダーが一望できるロケーションで雄大な景色を見ることができます。地域物産販売のテント村も多数出店します。

<http://www.fujisan.ne.jp>

- 開催日時：6月16日(金)～7月13日(木)
- 開催場所：河口湖畔八木崎公園、大石公園他
- 問合せ先：富士河口湖町観光課
TEL:0555-72-3168



花菖蒲まつり

新潟県三条市

しらさぎ森林公園では菖蒲の開花時期にあわせ、6月中旬～7月初旬まで「花菖蒲まつり」を実施し、夜間は花のライトアップを行っています。また、期間中は健康ウォークをはじめ様々なイベントが行なわれます。<http://www.city.sanjo.niigata.jp/>

- 開催日時：6月中旬～7月上旬
- 開催場所：しらさぎ森林公園
- 問合せ先：三条市観光課 TEL:0256-46-5904



機織り体験

岐阜県七宗町

七宗町には、町内の高齢者を中心に組織された「ふる里研究会」があり、昔の民具を収集し、それに伴う古い農村の生産技術を保存しようと活動しています。

その活動の一環として、ロックタウンプラザ2階にある農業研修室において、一般の方を対象に、伝統工芸の「機織り体験」の教室が開かれており、敷物などの織物を作成していただくことができます。なお、体験時間や料金（材料費程度）についてはその日の体験者数や、織物の大きさ等により異なりますので事前にご確認ください。

- 開催日時：月2回程度（土日、日時は要問合せ）
- 開催場所：ロックタウンプラザ2階 農業研修室
- 問合せ先：ふる里研究会 代表：林茂樹
TEL:0574-48-1902

有田陶器市

佐賀県有田町

明治29年から始まった有田陶器市、戦時中中断したものの、今年で103回目を迎えます。有田町内一円に陶磁器店が約600店出店し、全国から100万人以上の人出があるイベントです。普段では買えない価格で安く買え、陶磁器の新商品及び、種類の豊富さから人気があるイベントとなっています。

<http://www.arita-toukiichi.or.jp>

- 開催日時：4月29日(土)～5月5日(金)
- 開催場所：有田町内
- 問合せ先：有田商工会議所
TEL:0955-42-4111



彦根城桜まつり

滋賀県彦根市

彦根城の桜は、昭和の初めに「お城を桜の名所に」という呼びかけにより、市民が1本1本植えたもので、現在では染井吉野を中心に約1,300本が咲き誇る全国でも屈指の桜の名所となっています。

桜まつりの期間中は、ぼんぼり飾り等により桜見物の雰囲気盛り上げ、また、夜間はライトアップをして夜桜も楽しめるようになっています。さらに、城内では梅や桜の開花時期に合わせた、ご城下にぎわい市も開催されます。近江牛や湖魚の佃煮、和菓子、地酒などの彦根ならではの土産物が所狭しと並ぶ文字とおり賑やかで活気あふれる市です。

<http://www.city.hikone.shiga.jp/>

- 開催日時：4月1日(土)～4月20日(木)
- 開催場所：彦根城一帯
- 問合せ先：(社)彦根観光協会
TEL:0749-23-0001



第4回 土谷棚田火祭り

長崎県松浦市

日本棚田百選に認定されている、松浦市福島町の土谷棚田において、田植えを終えた水田の畦畔に空き缶を利用した松明による火祭りショーが開催されます。

日没後に点火される松明の灯りが、水田の水面に映える光景は素晴らしいものがあります。多くのカメラマンの方が早くから撮影場所の確保を行いますので、写真を撮られる方は早めにおいで下さい。また天気がよければ、火祭りショーの前に夕日が水面を照らした素晴らしい光景も撮影できます。（表紙に写真を掲載）<http://www.city-matsuura.jp/index.html>

- 開催日時：5月6日(土) 19:00～
- 開催場所：福島町土谷棚田周辺
- 問合せ先：TEL:0955-47-3111

以上の情報の収集に当たりましては、都道府県及び市町村関係課の多大なるご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。

農村景観に強い思いを有する方々が集まり、「農村景観応援団」が結成されましたのでご紹介します。
農村景観に関してご相談等ありましたら、事務局までご連絡下さい。

農村景観応援団の結成について

日本の農村景観は、地域の自然と人々の生業（なりわい）や生活との調和の中で、長い年月を経て築き上げられた私たち日本人の心のふるさとであり、国民的な財産です。しかし、その美しい農村景観は、農業の担い手が少なくなり、農村において新たな生活スタイルや技術が普及する中で急速に失われつつあります。

美しい農村景観を次世代に残していくためには、そこに暮らす人もそこを訪れる人も農村景観の意味や価値の理解を深め、力を合わせて地域での活動を展開していくことが何よりも大切です。また、その保全には多様な専門的知見を活用した総合的な取組も求められます。

このため、このたび分野を超えて農村景観に強い思いを有する者が集まり、美しい日本の景観の大切さを多くの方に伝え、「美の里」づくりを広く呼びかけていくべく、ここに「農村景観応援団」を結成いたしました。私たちは、それぞれの持つ専門的な知識や経験を結集して、農村景観の価値や活用方法などを示しつつ、志を同じくする専門家の方々の参加も得ながら、美しい農村景観づくりを応援していきます。またこれらの活動を通じて、多くの方々と一緒に活力があり誇りに満ちたまちづくり・むらづくりを広げていくこととします。

なお、当面は事務を農林水産省にお願いして、私たちの活動を進めることとします。

● 予定している活動

- (1) 美しい農村景観を大切にする国民意識の醸成
農村景観の価値等を伝えるパンフレット・ホームページの作成、各種機会を捉えた農村景観の考え方の紹介等
- (2) 美しい日本の「農」の風景を都市住民が育てる運動の支援
- (3) 美しい農村景観づくりに向けた地域活動の支援
農村景観の保全や活用に関する現地検討会の開催、応援団員の派遣等
- (4) 美しい農村景観づくりを進める関係団体への提言等
行政に対する提言、現地活動に関する助言や情報提供等

● メンバー・専門分野

金田 章裕（きんだ あきひろ）
京都大学大学院
文学研究科教授
[人文地理、歴史地理]



藤本 信義（ふじもと のぶよし）
宇都宮大学
工学部教授
[建築計画、地域計画]



生源寺 眞一（しょうげんじ しんいち）
東京大学大学院
農学生命科学研究科教授
[農業経済]



宮原 育子（みやはら いくこ）
宮城大学
事業構想学部助教授
[地域資源を活かした観光振興]

進士 五十八（しんじ いそや）
東京農業大学地域環境科学部教授
[景観政策、ルーラル・ランド
スケープデザイン]



山本 徳司（やまもと とくじ）
独立行政法人農業工学研究所
集落計画研究室室長
[住民参加による地域づくり]



田口 敦子（たぐち あつこ）
多摩美術大学
美術学部教授
[グラフィックデザイン、環境色彩]



横張 真（よこはり まこと）
筑波大学大学院
システム情報工学研究科教授
[緑地環境計画]

野中 和雄（のなか かずお）
財団法人競馬・農林水産情報衛星
通信機構（グリーンチャンネル）会長
[農山村振興]



[農村景観応援団事務局]
農林水産省農村振興局企画部農村政策課
電話：03-3502-5946

平成17年度「立ち上がる農山漁村※」30事例が選定されました！

本誌第17号で募集しました、平成17年度「立ち上がる農山漁村」の30事例が下記のとおり選定されましたので、ご紹介します。多数のご応募をいただき、ありがとうございました。

本年度「立ち上がる農山漁村」では、知的財産権を活用した農山漁村の振興をテーマにシンポジウムやマーケティング講習会の開催等を行いました。今後も、「地域自ら考え行動する」意欲あふれた取組みを推進してまいりますので、よろしくお願いいたします。

立ち上がる農山漁村は、ホームページ（<http://www.maff.go.jp/tatiagaru/newpage9.htm>）にて活動を紹介しています。ぜひご覧下さい。

平成17年度第1回有識者会議が平成17年12月8日、首相官邸大会議室において開催され、有識者会議委員の他、安倍内閣官房長官、中川農林水産大臣、中馬地域再生担当大臣が出席し、農林水産業を核とした、自律的で経営感覚豊かな農山漁村づくりの先駆的事例を「立ち上がる農山漁村」として30事例（次ページ）が選定されました。

冒頭には安倍内閣官房長官から、小泉内閣の基本方針の下、地域の潜在力を引き出す「立ち上がる農山漁村」の役割はますます大きくなっている。地域が自ら考え、がんばっていくとすばらしいものができる、都市にとっても農村がいきいきしていることで生活が豊かになる、と挨拶がありました。

また、中川農林水産大臣から、委員が選定の基準とした省エネ、食育、本物や輸出、健康といったキーワードは私や小泉総理の政治の基本理念とも合致している。日本の農産物は日本の高級志向のお客さまだけでなく世界の日本ブランドとなっている。今日はスタートということでさらに飛躍していくよう微力を尽くしたい、とコメントがありました。



※「立ち上がる農山漁村」とは

農山漁村では過疎化や高齢化で活力が低下している地域もありますが、その一方で農林水産業を核として自分たちの地域で力を出し、活発な取組を行い、地域を元気にしている人たちがいます。そういった事例を首相官邸で開催される有識者会議で「立ち上がる農山漁村」として選定し、「地域自ら考え行動する」意欲あふれた取組みを推進するために全国に発信・奨励しています。

選定の視点

- 農村振興に熱い思いを持ち、独自の経営感覚で推進している事業。
- 地域資源に注目し、大きく活かしている活動。
- 今までの常識にとらわれないユニークな戦略。
- 地域の経済を元気にし、雇用の創造などに貢献している取組み。

有識者会議委員メンバー

- アン・マクドナルド 委員
エッセイスト
- 今村 司 委員
日本テレビ編成局チーフプロデューサー
- 小泉 武夫 委員 東京農業大学教授
- 白石 真澄 委員 東洋大学助教授
- 長岡 杏子 委員 TBSアナウンサー
- 永島 敏行 委員 俳優
- 丹羽 宇一郎 委員
伊藤忠商事取締役会長
- 林 良博 委員 東京大学教授
- 三國 清三 委員
ホテル・ドゥ・ミクニ オーナーシェフ

平成17年度「立ち上がる農山漁村」30事例一覧

No	都道府県	市町村	分野	事業者名	取り組みについて
1	北海道	せたな町	他産業の農業 参入	(有)ヒルトップファーム	建設会社の農業参入による安全・安心のめん羊飼育と レストラン経営
2	北海道	沼田町	バイオマス・ リサイクル	北いぶき農業協同組合(沼田支 所)	雪を利用したまち・特産品(雪中米など)づくり ～克雷から利雪・親雪へ～
3	北海道	置戸町	交流	置戸町	オケクラフト生産・作り手養成活動
4	北海道	興部町	食	ノースブレインファーム(株)	「大地も草も牛も人も健康」をテーマに生産から販売 まで付加価値を付けた酪農で一頭一雇用
5	岩手県	花巻市	女性・若者	花巻農業協同組合, 母ちゃん ハウスだあすこ	母ちゃんパワー農産物直売所で地域農業の活性化
6	秋田県	横手市	女性・若者	浅舞(あさまい) 婦人漬物研 究会	女性グループが手作りの漬物を秋田から全国へ ～商標登録、品質確保の努力でブランド確立～
7	山形県	小国町	交流	小国町	地域資源を活用した山村総合産業の創出
8	栃木県	茂木町	バイオマス・ リサイクル	茂木町	家畜排泄物や町内生ごみ、落葉などの堆肥化による環 境保全型農業の推進
9	埼玉県	本庄市	知的財産	本庄PF研究会	知的財産権(特許、商標)を活用した情報付き農産物 の創造
10	千葉県	鴨川市	交流	NPO法人 大山千枚田保存会	千枚田保全活動を通じた都市農村交流
11	千葉県	大栄町	輸出	(株)生産者連合デコボン	日本産農産物海外宅配の取組み
12	神奈川県	小田原市	食	小田原市農林畜産物特産品開 発推進協議会	行政・消費者・生産者が一体となった農林水産業の振 興
13	福井県	小浜市	食	小浜市	「御食国」若狭おばまの伝統、「食」を中心に据えた 「食のまちづくり」
14	長野県	小谷村	交流	中谷郷が元気になる会	地域資源最大限活用による都市農村交流
15	岐阜県	恵那市	食	(株)里の菓工房	超特選恵那栗の拡大
16	愛知県	豊田市	バイオマス・ リサイクル	豊田・加茂 菜の花プロジェ クト	食品副産物と遊休地を利用して農業の活性化を図る
17	三重県	志摩市	知的財産	あのりふく協議会	地域資源の天然トラフグを活かした地域ブランドの創 出
18	滋賀県	甲賀市	女性・若者	(有)くのいち本舗	古代黒米を使った特産品作り
19	兵庫県	丹波市	IT	加古川流域森林資源活用検討 協議会	家づくりで森づくり 立木販売システム
20	和歌山県	田辺市	女性・若者	中辺路(なかへち)町森林組 合	「緑の雇用」と森林の環境整備で地域おこし
21	和歌山県	北山村	IT	北山村	地域特産柑橘「じゃばら」の地域ブランド化と「筏師」 の伝統を活かしたむらおこし
22	島根県	浜田市	知的財産	浜田市水産物ブランド化戦略 会議	「水産ブランドどんちっち」-利己的から利他的に-
23	島根県	江津市	食	農業生産法人(有)桜江町桑茶生 産組合	遊休資源「桑」を生かした農業の6次産業化
24	香川県	内海町	知的財産	(株)ヤマヒサ	島産オリーブ振興特区と特許を活用した地域振興
25	愛媛県	松前町	他産業の農業 参入	(有)あくり(金亀建設株)	地域に根ざした循環型農業の展開と建設労働力の温存
26	高知県	室戸市	食	土佐あき農協羽根園芸研究会 ナス部会	海洋深層水を使ったなす生産及びブランド化
27	高知県	馬路村	IT	馬路村農業協同組合	ゆずの市場開拓から始まった地域づくり
28	佐賀県	伊万里市	バイオマス・ リサイクル	特定非営利活動法人 伊万里 はちがめプラン	「生ごみを宝に！」食資源環境と地域の活性化
29	沖縄県	名護市	食	農業生産法人(有)水耕八重岳	ゴーヤーを活かした商品開発による地域振興
30	沖縄県	南城市	食	(株)たまぐすく	沖縄の主幹作物「さとうきび」を生かした村づくり

本誌第18号で募集しました、「第3回オーライ！ニッポン大賞」「第5回むらの伝統文化顕彰」の各賞が選定されましたのでご紹介します。多数のご応募をいただき、誠にありがとうございました。

第3回オーライ！ニッポン大賞

「オーライ！ニッポン大賞」は、全国の都市と農山漁村の共生・対流に関する優れた取り組みを表彰し、もって国民への新たなライフスタイルの普及定着を図ることを目的として、オーライ！ニッポン会議（代表：養老孟司東京大学名誉教授）、（財）都市農山漁村交流活性化機構、農林水産省が主催し、毎日新聞社との共催により、平成15年度から実施しているものです。

【グランプリ（内閣総理大臣賞）】

- 団体名：南部町(旧名川町)
- 市町村名：青森県南部町
- 概要

南部町名川地区のグリーン・ツーリズム活動の原点は、その言葉や概念さえ存在していなかった昭和61年に、県内一の栽培面積及び収穫を誇っていた「さくらんぼ」を地域振興の起爆剤にと実施した「さくらんぼ狩り」のイベントから始まっている。このことが農家と消費者の繋がりを生み、交流の輪が町内外に広がっていく中で、「名川型交流」という農業体験、郷土料理、地域文化を生かした交流形態を確立。平成3年度に交流の拠点施設としてオープンした農産物直売施設「名川チェリーセンター」は、平成16年度には2億9千万円の売上額となっている。また平成5年度から実施している首都圏の農業体験修学旅行の受入れは、平成8年度に近隣4町と「三戸地区観光振興協議会」を設立することで大規模校の修学旅行の対応を可能にするなど、受入体制の強化を図り、当時は1校（38人）だったのが、平成16年度は8校（旧名川町で561人）と増加している。



平成15年度からは、通年農業観光への誘客を図るために、東北新幹線八戸駅開業に合わせ、八戸・名川間無料シャトルバスの運行を行うなど、積極的に交流事業を展開している。さらに平成16年10月には、青森県との連携のもと、首都圏の中老年層と地元とのコミュニケーションを楽しんでもらうモデル事業として、パーチャルビレッジ達者村を開村し活動している。また、平成17年度からは東京の大手人材派遣会社が進める「農業インターンプロジェクト」の研修（9名）を受け入れるなど、いち早く農業体験を中心とした交流事業に着目し、活動実績20年を経てもなお、近隣町村と協力体制を取りながら積極的に取り組んでいる点が高く評価された。

【オーライ！ニッポン大賞】

- 団体名：標津町エコ・ツーリズム交流推進協議会
- 市町村名：北海道標津町
- 団体名：地球緑化センター
- 市町村名：東京都中央区
- 団体名：越後田舎体験推進協議会
- 市町村名：新潟県（広域）

- 団体名：北はりま田園空間博物館
- 市町村名：兵庫県西脇市
- 団体名：NPO砂浜美術館
- 市町村名：高知県大方町

【審査委員長賞】

- 団体名：由仁町
- 市町村名：北海道由仁町
- 団体名：尾上町蔵保存利活用促進会
- 市町村名：青森県平川市（旧尾上町）
- 団体名：片品村農業協同組合
- 市町村名：群馬県片品村

- 団体名：ユニチカ労働組合
- 市町村名：大阪府大阪市
- 団体名：新田むらづくり運営委員会
- 市町村名：鳥取県智頭町
- 団体名：阿蘇グリーンストック
- 市町村名：熊本県阿蘇市

【ライフスタイル賞】

- 個人名：庄司 祐子（しょうじ ゆうこ）
- 市町村名：山形県鶴岡市
- 個人名：秋山 恵生（あきやま よしお）
- 市町村名：長野県信濃町
- 個人名：瀬古 育二・純子（せこ いくじ・すみこ）
- 市町村名：岐阜県下呂市

- 個人名：越智 資行（おち もとゆき）
- 市町村名：愛媛県今治市
- 個人名：久野 雅照（ひさの まさてる）
- 市町村名：沖縄県与那国町

敬称略、オーライ！ニッポンのホームページ
<http://www.kyosei-tairyu.jp/index.html>

第5回むらの伝統文化顕彰

農林水産省、オーライ！ニッポン会議及び(財)都市農山漁村交流活性化機構では、農山漁村の伝統文化を愛し、その維持、継承、活用に積極的に取り組んでいる方々、農山漁村の営みや暮らしに関わる貴重な技術を今に伝えている方々、そして伝統文化を地域の活性化に生かして活動している方々を顕彰し、これからの農山漁村の魅力とその伝承活動を広めていきたいと考えています。

●全体の講評

今回は、芸能や神楽を始め、農山漁村の生活や生業の中で素朴に伝えられている技術や食文化、里山や棚田保全などの文化的な景観を地域の活性化に結び付けているなど、多岐にわたる領域の伝統文化が揃いました。どの応募も内容が充実しており、その活動内容は大変優れておりました。

その中には、地域の苦闘の歴史の中から生まれた「知恵」に着目し、それを地域の文化として光をあてて、子供達への継承や観光資源として活用している事例もみられました。また一度は途絶えてしまった伝統文化を地域の方々力が合わせて復活している事例が全体の三分の一もあり、都市と農山漁村の交流の資源として、また地域のコミュニティを形成する上でも、「むらの伝統文化」は重要な役割を担っていることを実感いたしました。

今年度の各賞の選考にあたっては、僅差で入賞できない事例が数多くありました。より磨きをかけて、参加の輪を広げながら再挑戦を期待しております。

【農林水産大臣賞】

●タイトル：「里山あすけの暮らしと手仕事 保存と継承」

●応募団体名：三州足助屋敷

●市町村名：愛知県豊田市

●概要

旧足助町は愛知県の北東の中山間部に位置し、塩の道『中馬街道』の宿場町・商業町として栄えた古い町並み地域と、山間の谷や小盆地に散在する多くの小集落からなっている。

過疎化とともに生活スタイルも変化したため、昔ながらの生活の価値を見直して残していこうと「生きた民俗資料館」として、昭和55年に「三州足助屋敷」が誕生した。明治時代の豪農の家をイメージし、地元材を使い昔ながらの工法で建てられ、地元大工の技術継承の場にもなった。「自分に必要なものは自分でつくる」ことを理想に掲げ、昔ながらの毎日の暮らしと、生活に必要なものをつくる手仕事を実践する場として、体験観光施設として、現在まで取り組みを続けている。

竹を割ってザルや箆を編む。ワラ草履を編む。家族の衣類に三河縞を機織り。燃料は山の雑木を焼いた炭。紙すきは農家の冬の



内職仕事であり、その紙で番傘を作る。正月をはじめ、ひな祭り、彼岸などの年中行事を、地域の高齢者の知恵と技術を積極的に取り入れて、かつての農家の暮らしと手仕事の風景が実際に再現される場となっている。

●講評

三州足助屋敷が誕生して25年間、地域の高齢者の熟練した技術と知恵を生かし、この地に残る「手仕事」や昔ながらの農家の普通の暮らしを忠実に伝承しており、この様子が地域の個性的な体験型の観光資源として経済効果を生んでいる点が評価されました。豊田市との合併という中でも、里山の生き様を残していくという努力をしており、旧足助町に残る里山の風景、昔ながらの農家の手仕事のある暮らしの継承は、これから大事になってくると思われます。

【農村振興局長賞】

●タイトル：

「かやぶき民家集落を復元して里山体験の「桃源郷」に」

●応募団体名：手這坂活用研究会

●市町村名：秋田県峰浜村

●タイトル：

「水文化の継承」

●応募団体名：板倉町民俗研究会

●市町村名：群馬県板倉町

【(財)都市農山漁村交流活性化機構理事長賞】

●タイトル：「豪雪地帯の伝統食文化と谷のお面さん祭り」

●応募団体名：北谷町まちづくり推進協議会

●市町村名：福井県勝山市

●タイトル：「高祖寺奥の院大日堂御頭行事 大餅さん」

●応募団体名：秋鹿大日堂御頭行事保存会

●市町村名：島根県松江市

●タイトル：「速水伊豆神社八朔大祭青物神輿」

●応募団体名：大字速水区

●市町村名：滋賀県湖北町

むらの伝統文化顕彰のホームページ

<http://www.kouryu.or.jp/dento/h17/index.html>

農村コミュニティ再生・活性化支援事業のご紹介

農村コミュニティの再生・活性化に向けては、都市から農村への定住促進、定住者の活用や地域における多様な主体の連携により、農村と地域企業との連携による新たな事業の創出など、農村の地場資源と地元人材等を活かした新たな取り組みの役割が期待されます。

しかし、こうした取組についてはノウハウや人材の不足など課題を有しているのが現状であり、行政の枠を超えて活動するNPO法人や団体等の多様な主体の参画により地域づくりを推進していくことが効果的だと考えられることから、この度、民間主導型の事業制度を創設しました。

事業の内容は、

- (1) 都市から農村への定住の促進
- (2) 地域産業との連携の推進

の2つの柱があり、NPO法人、農協、土地改良区、その他農業者の組織する団体のソフト活動を支援の対象としています。補助率は1/2です。

当事業の詳細は、各地方農政局農村計画部農村振興課もしくは本編集担当までお問い合わせ下さい。

農村コミュニティ再生・活性化支援事業

- 農村コミュニティの再生・活性化に向けた、NPO法人等の民間団体主導の取組を、国が直接支援するもの
- 取組の分野は、「都市から農村への定住の促進」、「地域産業との連携の推進」
- 補助率は1/2以内
- 事業実施主体は、NPO法人、農業協同組合、土地改良区、その他農業者の組織する団体、地方公共団体が出資する団体 等

都市から農村への定住等の促進

- ① 定住や長期滞在の促進方策策定、定住者を活用した集落の活性化方策の検討
- ② 定住支援体制の構築（住居、職業の生活情報などの一元的な情報提供や相談を行う定住支援体制の構築等）
- ③ 定住促進活動の実施（定住希望者への意向調査・PR等）
- ④ 定住者等による地域文化活動や農ある暮らしの実施のための体制整備



地域産業との連携の推進

- ① 異業種連携の推進
農村資源を活用した地元企業の事業拡大、新分野に進出等に向けた気運の醸成、調査・検討等。
- ② 多様な主体による地域連携活動の推進
多様な主体の連携体制の整備、地域共同活動の推進、試験的事業の実施等。
- ③ 地域産業集積に向けた企業誘致
地域の産業集積を図るための新規立地企業の誘致等。
- ④ 地域産業マネージャー育成・誘致
新たな産業・事業の展開につき、地域をリードして主体的に活動する人材の育成・誘致等。
- ⑤ 人材バンクの設置・運営
ビジネスノウハウ等を有する地元人材の登録、あっせん等に対する支援等。

事務局からのお知らせ

- 皆様からの情報提供をお待ちしております！

「交流情報誌 季刊 新往来」は皆様からお寄せいただいた情報で構成されています。地域の自慢やイベントの案内など、全国に向けて発信したい情報がありましたら、ぜひご連絡下さい。

次号（第21号）は平成18年6月中旬の発行を予定しておりますので、記入様式に必要な事項をご記入の上、4月下旬までに各都道府県又は下記の編集・発行元までお送り下さい。記事に関連する写真・イラストがありましたら併せてお寄せ下さい。記入様式をご要望の場合は、お手数ですが下記の編集・発行元までご連絡下さい。

皆様からお寄せいただいた情報についてはできる限り掲載するよう努めておりますが、誌面スペースの関係上掲載できない場合もありますので、あらかじめご了承下さい。

- 編集後記

本年2月に疏水百選 (<http://www.inakajin.or.jp/sosui/index.html>) が選定されました。

私が住む地域にも、350年以上前に開削された農業用水があります。その脇には歩道が造られており、流れる水や季節の農作物、青々とした大きな樹々を見ながら散歩することができます。時が流れ、緑が減りつつある地域において存在感を高めるこの用水は、人々に親しまれる貴重な場所となっています。



編集・発行

農林水産省 農村振興局 企画部 農村政策課 農村整備計画班

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

TEL:03-3502-8111(内線4619)

FAX:03-3595-6340

- 農林水産省のホームページでは、季刊「新往来」や都市と農山漁村の共生・交流など、様々な情報を掲載しております。ぜひご覧下さい。

農林水産省 (<http://www.maff.go.jp>) → 農村→都市農村交流の総合案内 (季刊 新往来)
<http://www.maff.go.jp/nouson/seisaku/sinourai/index.htm>)

